

# 平成27年度 全国学力・学習状況調査

白根小学校

4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取り組みについてご説明します。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂することなく、児童一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。

地域・保護者のみなさまには、本調査の趣旨を十分に理解した受け止めをしていただけるようお願いいたします。

## 1 小学校 教科別 学習状況調査結果（平均正答率(%)）

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科（知識）	理科（活用）
本校	68	63.4	72	42.7	57.1	62.2
神奈川県	67.9	64.3	74	44.8	59.9	60.8
全国	70	65.4	75.2	45.0	60.8	60.5

## 2 教科学習状況調査結果より

○力がついてきていると考えられる内容      ▲力をつけていくべき内容

### <国語A：主として知識>

- 漢字の読み書き
- 説明の文章の書き方の工夫として適切な方法を選択すること
- ▲無回答率がやや多いこと
- ▲文中において、主語が何であるのかを捉えること
- ▲生活の中で目にすることのある文章の中から、必要な情報を読み取ること

### <国語B：主として活用>

- 記述式の問題への無回答率が平均よりも少なく、取り組もうとする意欲が見られること
- 目的や意図に応じて、記事に見出しを付けること
- 登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読の工夫を考えること
- ▲登場人物の行動をもとに、場面の移り変わりを考えること
- ▲文章と図を関連付け、自分の考えを書くこと

### <算数A：主として知識>

- 小数、分数についての単位についての理解
- 式で表された数量の関係を図と関連付けること
- ▲小数、分数の四則計算

▲180度を超える角の大きさについての理解

▲二等辺三角形と円など、それぞれの性質を利用した問題を解決すること

<算数B：主として活用>

○図形を構成する辺の組み合わせを理解すること

○概数を利用して状況を判断すること

▲割引後の値段を求めるなど、割合についての理解

▲問題解決の方法として提示された考え方について説明すること

<理科>

○実験の予想を立て、見通しをもって実験を行うこと

○熱膨張や、電磁石などの性質を理解して問題を解決すること

▲メダカの雌雄の区別、顕微鏡の操作方法といった、実験、観察をする際に必要となる知識

▲グラフのデータをもとに、水溶液の中に溶けているものの出てくる量などを求めること

### 3 調査結果を受けて

#### 国語

##### 昨年の方策から

・学校司書と連携して、階段や廊下に言語に関する掲示物を掲示することで、児童の関心を高めたり語彙力を増やしたりする。

→本に関心をもち、人物の気持ちを想像する力がついてきている。

・学習する単元のゴールや身に付けさせたい力を明確にすることで、児童たちが見通しをもった学習を進められるようにする。

→見通しをもち、何ができればよいのか、めあてを理解して学習に取り組む児童が増えてきている。

・言語活動例を具体化し、「図鑑をつくる」「解説リーフレットにまとめる」「新聞にまとめる」などの言語活動を単元を貫いて位置づけることにより、児童自身の「目的や必要」を明確にし、それに応じて要約できるように指導する。また、上記の学習を他教科の学習と関連づけて、まとめたり書いたりする力に繋げる。

→短い言葉で見出しにまとめる力、記述式の問題に取り組もうとする力がついてきている。

##### 今後の方策

・文の中で主述を捉える力をつけるための基本問題の充実（宿題など）

・パンフレットや広告、説明書、募集要項などから必要な情報を読み取るといった生活との関連を図った学習の一層の充実

#### 算数

##### 昨年の方策から

・本時のめあてが明確になるような導入のあり方を工夫する。

→1時間の授業の中で考えることが何なのかを理解して取り組むことができる児童が増えてきている。

・低学年は具体物を操作したり、高学年は図や数直線を使って考えたりすることで、視覚的に捉えて問

題解決できるようにする。

→具体物や数直線を活用し、問題を解決しようとする児童が増えてきている。

- ・学習中に思考する時間を設け、個人の問題解決力を高める。

→思考するための手立て、見通しをもつ時間を作るようにし、自分の力で問題解決できるよう工夫をしている。

- ・発表している児童の考えのポイントを教師が整理することで、児童の考えの幅を広げるようにする。また、似た問題を繰り返し出して定着できるようにする。

→思考の整理の視点について確認し、それぞれの考え方の特長を見つけていくことで、よりよい考え方を発見していこうとすることができるようになってきている。適用問題に取り組む時間を作ることで、その時間における学習内容の確認と定着を図っている。

#### 今後の方策

- ・計算・図形についての基本的な練習の充実（スキルタイム、宿題）
- ・既習事項を復習する機会の充実（定期的な復習プリントの活用）
- ・出てきた考え方について考え、説明する場面の充実（授業の中で友達の考えを説明するなど）

理科（理科については本年度よりの実施となりますので、今後の方策を載せさせていただきます。）

#### 今後の方策

- ・実験・観察に必要な知識についての復習の充実を図るようにする。（掲示物、宿題など、触れる機会を増やす。）
- ・学習した性質を活用して思考するような問題に取り組む時間の充実を図るようにする。（算数など、他教科との関連も考えていく。）